

千年の森便り No.205

2020.8.24

ちば千年の森をつくる会

<http://toyofusajima.html.xdomain.jp/>

代表 坂本文雄 編集 真鍋昌義

sennennomori@hotmail.co.jp

活動の記録

先月の記録的な長雨から一変し、8月は日照りと猛暑続きになりました。16日の活動日までに県内の一部地域で夕立の日がありましたが、豊英島には雨雲がかかっていなかった模様で林内は乾燥し切っていました。但し、ダム湖は例年この時期には減水して湖底が現れるのに今年ばかりは満水でした。

夏のきのご観察会には全く不向きな状況でも年間計画に定めた行事なので、皆で手分けして島内の発生状況確認に出かけました。言い換えれば発生していない事の確認です。1時間ほどで千年広場に引き上げて来た人の筆の中身は拾い集めたゴミばかりでした。きのこを早々に諦めて水辺のゴミ拾いに目的変更の結果です。

少々気の抜けた表情の面々が千年広場で休息するにしても、適当な木陰が少なくなってしまったのは昨年の台風で高木の枝折れが甚だしかった為です。午後は気を取り直して、各自のテーマで活動をしました。



真夏に満水の豊島湖



島外農地で集合写真



見つけたきのこはホコリタケ属一種

参加者は 秋元、伊藤、及川、久我夫妻、坂本、福島、村野の8名。暑い中、皆様お疲れ様でした。(坂本)

コナラ枯れ被害調査

島に入ってすぐに目についたのは、台風被害で伐採したコナラから出た大量のサラサラした木くずでした。もしや、と思いながら広場に向かうと、その途中にも立ったままで根元の周辺に大量の木くずを出しているコナラが4本見つかりました。よく観察すると、幹には直径2mmほどの穴がたくさん開いており、カシノナガキクイムシが大量に穿孔した痕と考えられました。

豊英島では、2019年9月にカシノナガキクイムシのコナラに対する穿孔が初めて確認され、その個体は今年に入って枯死が確認されました。初めての確認から1年が経過し、今年の被害状況を把握するため、主に巨木林エリアの歩道周辺でカシノナガキクイムシの穿入の状況を調査しました。



大量のフラス



カシノナガキクイムシによる穿孔

調査の結果、昨年に穿孔が確認された1本を含めて49本(立木46本、伐採木3本)に大量の穿孔が確認されました。樹種はすべてコナラでした。また、立木のうち枯死したものは14本(30%)、枯れかけているものは7本(15%)、生存しているものは25本(55%)で、穿孔されたコナラの45%が枯死又は枯れかけているという状況でした。なお、コナラ以外の樹種では、ウラジロガシ1本に少数の穿孔と樹液の漏出が見られましたが、カシノナガキクイムシによる穿孔かどうかは不明です。

おそらく、今後数年で高木層を占めるコナラが大量に枯れると思われます。ナラ枯れをどうとらえるか、考え方はいろいろあると思いますが、高齢化したコナラ林を若返らせる自然の仕組みというとらえ方もあると思っています。(福島)

猛暑の島内巡り

今回の活動日は本当に暑かったです。島の中は落葉がカラカラに乾ききっていて日差しも強く、木陰に入っても吹いてくる風は生ぬるく、冷涼感は全くありませんでした。島内を一通りの歩いて気づいたことをまとめました。(秋元)

〇ツチアケビ

7月に立派に結実した個体の種子散布が上手くいくようにと前回保護柵を外し、その結果確認のため2箇所の株を見に行きました。広場脇の株はほとんど食べられ、3個の実と地面に落ちた実1個が残っていました。吊橋脇の株は全く食べられた形跡がありませんでした。足場の悪い目立たない場所のため、見つかっていないのかもしれないかもしれません。

〇北側斜面の植物

- ・冬場にツララの確認できた斜面の近くの湿った場所に名前のわからない腐生植物のようなものが3個ありました。大きさは10mm前後で白



ヒナノシャクジョウ

〇秋元さんの大発見 秋元さんが斜面で撮影した左写真の植物は栗山さん、新井通子さんの同定で「ヒナノシャクジョウ科-ヒナノシャクジョウ」でした。千葉県最重要保護生物 A、環境省絶滅危惧種 VU 指定。

この発見で豊英島の種子植物は累計 345 種になりました。菌従属栄養植物の一種で、アーバスキュラー菌根菌 (AM 菌) と共生しているとのこと。

新井さんなど多くの方の経験では、近くにホンゴウソウが見つかることが多いとのことですから、ホンゴウソウも探したいものですが、この場所は垂直に近い急斜面で転落しないよう最大の警戒が必要です。(真鍋)



参考)ホンゴウソウ

- ・この場所から西側の斜面でクサアジサイの咲いていた近くにタマアジサイが咲き始めていました。



タマアジサイ



シャシャンボ



ゴンズイ



ナガバノコウヤボウキ

〇ホテイ岬方面

トビの巣近くのシャシャンボの実は 3m ほどの高さの位置にあり、緑色で鈴なりでした。ここから岬方面に向かいました。このところ活動が制限されていたためなのかジョロウグモのようなクモの巣がいたるところに張り巡らされ、とても歩きにくかったです。今回は特別多いように思いました。

岬の先端付近にはモグラの穴が2箇所ありました。また、岬先端の湖面に張り出すように真っ赤なゴンズイがありました。

〇ギャップ伐採更新林保護柵内

- ・ツガカレハの繭が保護ネットに付いていました。昨年不用意に触れて痛い目に遭いました。幼虫と繭には毒針毛の束があると知ったのは痛い目をみた後のことです。要注意です。

- ・草丈 30cm ほどのアキノタムラソウが 10 数本咲いており、その周辺をキタキチョウとミツバチと思われる蜂が飛び回っていました。

- ・ネット脇のオトコエシはもうすぐ開花しそうな様子で、ネットからはみ出した1株のイチヤクソウは5個の果実をつけていました。

- ・Cブロックのオケラは伐採されてなくなりましたが、Aブロックの藪の中に蕾をつけた個体がありました。
- ・Dブロックに残したナガバナコウヤボウキはきれいに咲いていました。(秋元)

○アブラギリの実生

林内の広範囲にアブラギリの幼木が生えていました。丁寧に探してカウントすれば 100 本は下らない数だったと思います。今までこれ程の発生を見た記憶がありません。

これも台風による高木の枝折れで林床に届く光線量が増えた為でしょうか。現在優占種のコナラは老齢化なのか活力が失せ、ナラ枯れ病も発生し始めているところから将来は主役の座を降りるかも知れません。アブラギリがその座を奪う可能性があります、結果を見届けるには時間が足りません。

ところでアブラギリの種子を散布したのは何ものでしょうか。重量のある種ですから風ではありません。鳥なのか哺乳類なのか疑問です。(坂本)



アブラギリの実生

○マダニ

朝届いた千葉日報に、『君津市の無職女性（85）が、右足首をマダニに刺され日本紅斑熱に感染し死亡した。県内では今年、日本紅斑熱の感染例が女性を含め6人確認されている。』との記事があり、十分に注意しようと市販の虫よけスプレーを準備し島に入りました。昼食時に久我さんが『あ！いた』と叫び、なんだろと思ったらマダニでした。掌の上を早い動きで移動していました。これからも予防はしっかりしようと思いました。(秋元)



フタトゲチマダニ(秋元)

秋元さんのマダニ記事に対し東大院でマダニ研究中の松山会員の投稿

日本紅斑熱は、1980年代に発見された比較的新しい感染症です。この感染症は細菌を持つダニに咬まれることで発病します。言い換えれば、ダニに咬まれたからといって必ず感染するわけではありません。予防法は、咬まれないことです(当たり前?)。肌を露出させない服装や虫除けスプレー(“イカリジン”か“ディート”という成分が含まれるものに限る)が有効です。あとは野外で作業した後は、できるだけ早くシャワーを浴びることでしょうか。お送りいただいた画像のマダニ種は見たところ、フタトゲチマダニのようです。この種は他地域で日本紅斑熱の病原菌を持つことが知られています(千葉県ではどのマダニ種が病原菌を持っているのかわかっていません)。会員の皆様にはマダニの感染症はもちろんですが、コロナや熱中症にもくれぐれもお気をつけてお過ごしください。(松山)

○倒木の処理

午前中、ホテイ岬の方へキノコを探しに行ったら、湖面から吹き上げる涼しい風に吹かれ、心地良い気分でした。昼食時、中央広場のテーブルには、真夏の太陽の光が差し込み蒸し暑い。木陰を求めての食事でした。

午後、竹林の方へ行く歩道に、倒木が横たわっているので、チェーンソーで切断したら、良く歩けるようになりました。(3ヶ所) 家内(則子)の応援あり。(久我哲也)

豊英島二次自然植生再生へのアプローチ

<参加者>

伊藤、村野、及川(敬称略)

<これまでの経緯>

入会以来、多様な知識/スキルをお持ちの諸先輩方への興味に目を奪われながら漠然と感じていた植生の違和

感、その正体に遅ればせながら去年やっと気づきました。確かに自然愛好家の眼を引く観察対象はまだ豊かですが、反面、千葉県内であればどこにでも繁茂して当然の一般的な植物が乏しいのです。理由は唯一つ、シカの食べられる全ての植物（厳密にはそれらに依存する小型動物・鳥類・昆虫を含む多くの生物）の生殺与奪権が二ホンジカに委ねられているからです。このため、当島における Red Data Book 最上位絶滅危惧種は（私の独断ですが）あの繁殖力が強く緑地の嫌われ者のアオキでした。

アオキの移植を提案したところ、系統種保存を盾に『遺伝子攪乱になる』と反対を受けました。『長い間見殺しにし続け、ほぼ絶滅状態を招いたこの期に及んで空理空論か』と虚しさを感じましたが、行動なしには改善もないので、1年かけて挿し木によるクローン（同遺伝子個体）苗作成後の定植をスタートとすると腹をくくりました。

2019年4月、残存するアオキから1枝を譲り受け、切り分けて10本の挿し木としたところ、樹勢が衰えていたようで、5本のみ発根。6月に鉢上げし、室内栽培の後今春よりベランダにて栽培、新たな出葉・成長を認めたため、今夏での定植地の選定と保護柵の整備を決断しました。

<本日の活動内容>

保護柵は、支柱として容易に強度を担保する方法として、生のタケを利用し、横木を固定するための穴を空けることとしました。先月、キリとリマーという手動工具のみで臨み、右手手の平のどでかい豆をつぶし、しばらく何の作業もできなかった反省から、電動ドリルを購入・持参してリベンジを試みました。さすが電動工具、前回半日で横木固定用の穴1対を空けるのがやっとだったものを、今回は同じ時間で31対の穴が空けられ、穴あけ作業は完了しました。



アオキの保護柵つくり

午後に入り横木のタケを針金で固定する作業を始めたところで、『及川がまた何かおかしいことをしているんだらう』という体で伊藤さんと村野さんが登場。何の工夫もない手間ばかりの作業内容にあきれながらも横木の固定作業を手伝っていただきました。感謝。（及川）

○農地の草刈

午後から蒸し暑さが和らいできたので熱中症の危険度も下がったと判断し、里芋周辺と畔の草刈をしました。刈り取った草は出来るだけ集めて里芋の株元に敷き、草マルチにしました。乾燥防止、雑草抑制などの効果を期待し、最終的には有機物として土に戻します。

里芋がこのまま順調に生育して収穫に至ると分配は各人10Kになるかもしれません。無駄なく食べ切る為のレシピを今から考えて置いて下さい。獲らぬ狸の何とかならない様に手入れしたいものです。（坂本）



里芋に草マルチ

お知らせ

次回活動日は**9月22日（祝）**です。3連休の最終日ですのでお間違いなく願います。活動内容は、シカ個体数調査、保護ネットの新規増設がメインの活動です。保護ネット増設は、台風15号、ナラ枯れ被害で森林の様子が変わり新たな下層植生の出現が期待できる中、設置を急ぎたいと思います。猛暑も一段落して、その他の個別活動にも適期となりますので、ぜひご参加ください。9時30分、清和自然休養村（直売所）集合です。（事務局）